

がけくずれ実験

死者15人の大惨事

11月11日午後3時40分、川崎市生田9332。生田緑地内、日本民家園近くの高さ30mのがけで、国立防災科学技術センターなどを中心に進められていた人工降雨によるがけくずれの実験中、幅15m、長さ30mにわたり約45度の斜面がくずれ、予定地点でとまらず、約70m離れたひょうたん池まで押し寄せた。

この事故で実験に参加していた研究員や報道関係者20数名が生き埋めとなり、15人が死亡、10人の重軽傷者を出した。

国立防災科学技術センター、建設省、土木研究所、通産省地質調査所、消防庁消防研究所など国の防災機関総がかりの研究であった『関東ローム台地におけるがけくずれに関する総合研究』は専門家を動員し、最新の科学技術を駆使してガケ崩れの機構を調べるはづの実験であったが、科学者の科学への盲信、安全性への配慮の欠如がこの大惨事をひきおこした。

16日、佐藤首相は平泉科学技術庁長官を更迭した。7月初めの内閣改造から増原防衛庁長官について2人目。佐藤内閣の人命尊重政策は果して万全なのだろうか。

教育のひずみ

不 信

東京でも指おりの名門校、麻布学園。学校の正門が固く閉ざされてから、すでに1ヶ月をこえた。

麻布で、学園民主化が叫ばれてから2年近くになる。そこから生れたものは……。

文化祭。学園をとりまく社会の数々の現象に敏感に反応する生徒の自己主張がみられる場。そして、今度のロック・アウトは文化祭になだれ込んだヘルメット姿の生徒達が山内校長代行に直接会おうとして、学内を荒らした事からはじまった。公務執行防害、器物損壊などで、数人の生徒が逮捕され、起訴された。ある生徒は

『8人の生徒が家庭で逮捕され、ネリガンに送られた。裁判所は学校側の……』

吹き荒れる政治の季節。生徒は自主活動の自由を求め政治活動自由を求めた。山内校長代行は一貫して、麻布を暴力デモの拠点校にしたくないのを理由に認めようとしなかった。

このままだと全員留年になるという都の勧告に従い、タイムリミットの迫った11月13日、ロックアウトは解除された。授業再開、誰もが望んだ事である。しかし山積みの問題が何も解決されないままのロックアウト解除。生徒は、告訴取り下げ処分撤回を叫び全学集会は1日中行なわれた。

月曜日も小雨降る中、全学集会は続いた。処分撤回を叫び山内校長代行が退陣するまで、ハンストを行なう生徒も現われた。グランドで見守る母親同志が云い争った。先生が一番ひきょうだと云う母親もいた。

夕刻、告訴されていたT君が麻布署員に逮捕された。事態は急変し、怒った生徒が校長代行を離そうとした。

生徒は逮捕されたT君を返せと雨に打たれながら叫んだ。異状事態に学校側はついに告訴を取り下げると発表。T君の母親がこのままだと事態が悪化するばかりです。帰って下さい。と生徒に向かって叫んだ。

生徒と先生が云い争う。教師と生徒、親と子供、教育そのものに対する生徒の感情。そこには長い間にじわじわしみ込んだ不信感がむきだしになっていた。理事会は山内校長代行の辞任を認めた。

PTA会長は「日本の縮図です。学校教育の理念と方法の中で政治をどうとらえ返すのかそれが解決の本質です」と語る。不信だけを生んで、麻布学園の紛争は一応終った。しかし吹き荒れる政治の季節に問題は、解決されないまま、学校教育は行なわれている。